

## 「津波てんでんこ」の4つの意味 Revisiting the concept of tsunami tendenko

矢守 克也<sup>1\*</sup>

YAMORI, Katsuya<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 京都大学防災研究所

<sup>1</sup> Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

本報告は、東日本大震災において迅速な津波避難の重要性が再認識されたことから、あらためて大きな注目を集めるようになった「津波てんでんこ」(以下、「てんでんこ」という用語とその意味について、社会心理学、防災教育論の観点から再検討したものである。

結論的には、「てんでんこ」が、通常用いられている意味だけでなく、それを含めて少なくとも4つの意味・機能 - 第1に、自助原則の強調、第2に、他者避難の促進、第3に、相互信頼の事前醸成、最後に、生存者の自責感の低減 - を多面的に織り込んだ重層的な用語であることを、この言葉の成立史、東日本大震災やその他の津波避難事例に関する社会調査のデータ、および、社会心理学の分野における研究成果をもとに明らかにする。あわせて、そのことが津波避難問題の複雑性と解決へ向けた方向性を象徴していることを示す。

第1に、自助原則の強調。これは、この用語の普及のきっかけとなった山下文男氏の言葉、「要するに、凄まじいスピードと破壊力の塊である津波から逃れて助かるためには、薄情なようではあっても、親でも子でも兄弟でも、人のことなどはかまわずに、てんでんばらばらに、分、秒を争うようにして素早く、しかも急いで速く逃げなさい、これが一人でも多くの人が津波から身を守り、犠牲者を少なくする方法です」(山下, 2008)からも明らかである。しかし他方で、山下氏自身が注意を促しているように、この言葉は、大津波で家族、親族が「共倒れ」する悲劇に一度ならず見舞われてきた三陸地方の人びとがやむにやまれず生み出した「哀しい教え」であることも重要である。

第2に、他者避難の促進。東日本大震災の津波避難調査でも、最初に「てんでんこ」に逃げ出した人を見て、それに続く人が多数存在したことが報告されている。人間にとってもっとも重要な災害情報は、人自身(他者のふるまい)である。津波警報や避難指示よりも逃げている人を目撃したり、避難を勧められたりすることが強力な情報になることを示唆する調査報告も多数存在する。同時に、このことを実証した群集行動に関する実験結果もある(矢守, 2011)。

第3に、相互信頼の事前醸成。「てんでんこ」の原則の成功のためには、片田(2011)が指摘するように、非常に大切な前提がある。それは最も命を救いたいと考えている人物も、自分と同様に「てんでんこ」するであろうという確信である。この信頼は両方向(たとえば、親から子、子から親)に形成されている必要があるから、最終的には、「てんでんこ」をめぐる相互信頼のネットワークが事前醸成されていなければならない。

最後に、生存者の自責感の低減。「てんでんこ」は津波を生き延びた人にとっても重要な意味をもつ。たとえば、祖母と孫娘がいて、孫は助かったが祖母は津波で亡くなったとする。孫にはまだ70年、80年の余生が存在するが、祖母のために何かできたのではないか、祖母は自分の助けを待ちながら亡くなったのではないか、と思いつける可能性が十分にあることは、被災者(特に遺族)の災害後の心的過程を追った研究からも実証されている。「てんでんこ」は、このような自責感を和らげ、生存者が前向きに生きることを支援する働き(「津波のときはてんでんこ、それぞれが逃げてよかったんだよ」と祖母は語りかけてくれていた)も有している。

このように、「てんでんこ」は、多面的な意味をあわせもつ重層的な言葉(教え)である。特に、それが、いわゆる災害マネジメントサイクルのすべての局面に関与する点は重要である。自然現象としての災害(特に本報告で問題にしている地震や津波)は、相対的に短時間に発生するとしても、その社会的インパクトは長期にわたると主張は、むしろ旧聞に属する。しかし、たとえ、そのように理解したとしても、近年の防災研究ですら、結局は、事前の準備期、緊急の対応期、その後の復旧・復興期がそれぞれ独立した様相として論じられている場合が多い。

これとは対照的に、「てんでんこ」は、一つの教えの中に、さまざまな要素が積み込まれている。すなわち、たしかに、「てんでんこ」は、表面的には、一刻を争う津波避難時の行動原則に焦点化した用語である。しかし、見てきたように、「てんでんこ」は、それと同時に、事前の社会(家族やコミュニティ)のあり方、逆に、事後の人心の回復やその結集にも大きな意味をもつ教えであった。さらに、一見「自助」のみを強調するかに見える「てんでんこ」が、実は、「共助」の重要性を強調する要素を大幅に有していることを踏まえれば、「てんでんこ」が、「総合的な災害リスクマネジメント」の必要性を先駆的に予見した用語でもあったことが了解できる。

キーワード: 津波, 避難, 社会心理学, 災害情報, 防災教育, 津波てんでんこ

Keywords: tsunami, evacuation, social psychology, disaster information, disaster education, tsunami tendenko